

小網代の森と干潟を守る会  
**小網代 森と干潟つうしん**



モリちゃんとガタくん干潟デビュー

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

**小網代の森と干潟を守る会**

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費：一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月～6月)

郵便振替：00260-4-21569 コアジロノモリトヒガタマモルカイ

## 第108回自然観察&クリーン

### 「春の小網代を歩く」



三崎口駅に到着するとゴールデンウィーク 2 日目で晴天とあって大勢の行楽客でにぎわっていた。

4 月 29 日 (昭和の日)、恒例の春の小網代を歩く自然観察会が 23 名の観察者と 13 名のスタッフで開催された。三崎方向へ続く、渋滞の車列を横目に見ながら小網代の谷の最上流である引橋へと歩いた。引橋では小網代の谷の全景を見るとともに初声の谷、東京湾方向の谷との分水界を確認した。さらに、ツリーウォークのように木を上から眺める

ことができるため、新緑の木々について、じっくりと観察することができた。マテバシイ、スダジイなどの常緑樹。ミズキ、ハゼなどの落葉広葉樹。フジ、サルトリイバラなどの蔓性植物を見ながら、南側の尾根を小網代給水塔から義士塚、刀塚を経て大きな銀杏の木のある農家のわきから宮前の峠へと春の草花を観察しながらゆっくりと歩いた。

バッタやハナムグリなど野の花には昆虫が群がっており、宮前の峠では、確実に地温が上昇しているようアカテガニ、クロベンケイガニが活動を開始していた。

アカテガニ広場で昼食の後、干潟の清掃を行った。暖かかったので干潟のカニ達も活動が活発でアシハラガニ、ハマガニ、チゴガニなどなど、さまざまな種類のカニ達に出会うことができた。

まとめの会では、保全の進行状況、トラスト緑地支援会員制度の説明など行い、終了となった。

帰り道は北尾根を通り、ヤマユリの株、ホウチャクソウ、ササバギランを確認し、帰路についた。

この日は、天気の特異日とあって一日中、晴天で気温も高く、生き物の賑わいを感じられた良い一日であった。



文・矢部和弘 写真・松下景太

### 干潟のカニを観察してみよう、カニの食事とダンスの話

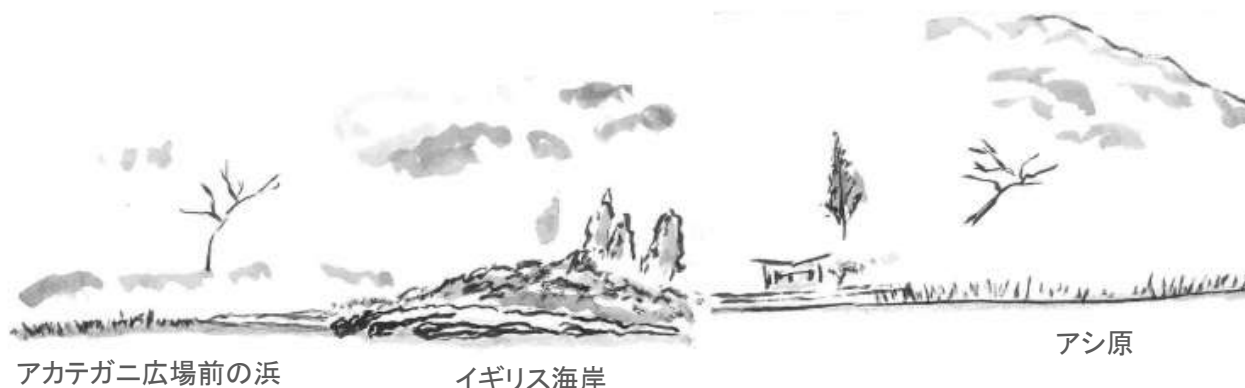
小網代の森で暮らすカニの主役はアカテガニですが干潟で暮らすカニの主役はチゴガニとコメツキガニです。アカテガニは小網代の森でミミズやケムシを食べて夏の放仔に備えますが、干潟のカニたちの食事はどうでしょう。カニの口は口の前に付属肢というものがあり、食事をするのに大事な働きをしています。付属肢はもともと節足動物の先祖が持っていた脚が次第に口器の一部として変形してきたもので、6対の付属肢からできています。したがって口器付属肢をよく見るとそのカニがどんな食事をしているかがわかります。

干潟のチゴガニとコメツキガニは干潟の砂粒に含まれている小さな珪藻類、有機物片、砂粒表面のバクテリアなどを食べています。食事のチゴガニやコメツキガニは盛んにハサミで砂粒を口の中に運んでいます。口に運ばれた砂粒はまず、鰓から押し出されてきた水で洗われて、重い砂の部分と軽い食物を含んだ部分に分けられます。食物を含んだ水は口器付属肢の間に吸い込まれ、水中をただよっていた食物類は水が鰓に再吸収されると口器付属肢の表面の剛毛に付着します。食物類が無駄なく付着するように付属肢の水が通る部分にはまんべんなく鳥の羽のような毛がたくさん生えています。特に砂っぽい干潟で暮らすコメツキガニのような種類のカニは高いこしとり能力が必要なのでスプーン状の毛、砂と泥の混ざった場所に暮らすチゴガニでは耳かき状かブラシ状の毛をしています。アカテガニなどではこしとりを必要としないので針状の毛しか生えていません。

次に、食事のときに残った重い砂粒は口の出口に集められます。濾過した残りの砂が口器の上にたまるか、下にたまるかは口器での水の使い方と関係があるようです。

チゴガニでは砂粒は上からできはじめて下に溜まりますが、コメツキガニでは下から持ち上げて上に溜まります。コメツキガニは口の上に溜まった砂粒をハサミでつまみとってポイット捨てるので砂団子を上手に作ります。チゴガニは口の下側に溜まった砂粒をハサミでかきおとすだけなので砂団子が上手にできません。しかし、チゴガニは巣穴の周りにさまざまなバリケードを作るのでこのときには大きな砂団子を作って並べます。

干潟のカニたちは食事の後はダンスです。カニのダンスはウエービングと言われます。



※ 6月23日(土) 小倉雅實氏の案内で、第109回自然観察&クリーン「干潟の生きものたち」を

干潟のカニのダンスはオスの求愛行動と考えられています。コメツキガニの場合、オスは周囲にメスが多くいるときには頻りにウエービングを行います、周りにオスが多くの場合にはほとんどウエービングを行いません。また、コメツキガニでは巣穴を持つ大きなオスと巣穴を持たない小さなオスが見られますが、ウエービングが見られるオスは大部分が巣穴を持つオスです。このことからコメツキガニのオスのウエービングは巣穴を持つオスであることをアピールする求愛行動として作用しているようです。(コメツキガニでは巣穴を持っているオスの方が巣穴を持たないオスより繁殖成功率が約4倍高い) つぎはチゴガニのダンスです。日本の干潟に暮らすチゴガニの仲間はチゴガニと九州の有明海のハラグレチゴガニの2種類です。日本から東南アジアにかけて見られるチゴガニ類15種類のウエービングを細かく観察した研究によるとチゴガニ類のウエービングは3つのタイプに分類され、外側から内側に円を描くようにハサミ振るタイプ、左右のハサミを同時に上下に動かす垂直のハサミ振りタイプ、左右のハサミをバラバラに動かす非対称のハサミ振りタイプが見られます。一番多く見られるタイプは円を描くタイプで日本のチゴガニを含めて9種います。非対称のタイプは2種で、垂直のタイプが4種です。また、分子生物学的な系統発生の研究からハサミ振りタイプは円を描くタイプから垂直のタイプと非対称のタイプが進化したものと考えられています。

チゴガニのオスは繁殖期にメスが接近するとそのメスに向けてウエービングを行い、自分の巣穴に誘い込みます。しかし、チゴガニの場合には、オスはメスが近くにいないときにもウエービングを行います。特定の相手には向けられないこのウエービングの機能はまだはっきりと解明されていませんが、繁殖期に限ってこのウエービングが見られることからつがい形成に機能しているようです。このウエービングについての野外での研究によると、オスのウエービング個体数の多い集団と少ない集団とではメスはオスのウエービングが多い集団を選択するという結果となっています。したがって、この特定の相手に向けられないウエービングは遠くにいるメスを自分たちの集団に誘引する効果があるようです。

干潟のカニたちをじっくり観察するだけでもおもしろいことや不思議なことがまだまだたくさんあります。是非、小網代の干潟に出かけてみてください。

(参考資料:和田先生(奈良女子大)の研究;小野先生(九州大学)の研究)

小倉 雅實



開催します。観察会のご案内は 12 ページをご覧ください。

干潟のゆりかごの小さな住人 その4

## 海にもいろいろ、虎も牛も鹿も、そして兎も



ジボーリン菜穂子

初夏、潮が引いた後の干潟や海岸を散歩しておりますと、おもしろいものに出くわします。見たこと、ありますよね。パスタの麺だけ。かわいそうに。コンビニで買ってきたミートソースパスタ・・・。海岸の風に吹かれながら、気分よく食べようと思ってたのかなあ。落としちゃったのかなあ。ミートソースは、カモメに食べられちゃったり、波に流されちゃって、麺だけ残ったんだね・・・。みたいなもの。

そうです。ウミソーメンです。アメフラシの卵なんです。名前の通りラーメンやソーメンにそっくり。食べられそうなくらい。あまり食用にはならないと聞いています。海素麺という本当に食用のものがありますが、これは、海藻です。ベニモズク科の紅藻だそうです。

卵には、愉快的名前がついていますが、親ときたら、雨降らしなんて。詩的情緒ある名前ではありませんか。地方によっては、アメフラシは、雨を降らせる不思議な霊力を有する、と言い伝えられているそうです。アメフラシが岩場に集まってくると雨になるんですって。アメフラシを突ついていじめたり、いじくったりすると、時化になる、とか、雨が降る、などとも言われていますね。たしかに、アメフラシにちょっかいを出すと、不思議なことが起こります。紫色の汁を出すのですよね。煙幕のように浅瀬の岩場の海水中に広がります。これを雨に「見立て」て、雨を降らせる雨降らし、と考えられていることが多いようです。

見立てというのは、日本美の得意中の得意。本家の美しさを基にして、さらなる美を生み出すのです。美しさだけではありません。たとえば美川憲一をモノマネするコロケをさらにモノマネする、というような可笑しさもありますね。アメフラシという名前のつけ方からもわかるように、「見立て」にしろ、何にしろ、日本の美しさ、感じ方というものは、自然ぬきでは語れないのです。見立ての例はここかしこにあります。ひとつだけ。横浜方面から小網代にいらっしゃるとき、京急で、金沢八景という駅がありますね。もちろん、広重の浮世絵でおなじみ、8つの見どころがあるわけですが、これも、もともとは中国の瀟湘八景。ですから、日本では、ほかにも、近江八景とか全国で。さらには、平壤八景とか、東アジア中でも見られます。この八景、場所だけではないですよ。鈴木春信の坐鋪八景。お部屋の中の様子です。瀟湘八景では「平沙落雁」。金沢八景では平潟湾の「平潟落雁」ですが、春信の手にかかると「琴路の落雁」。お琴の琴柱を雁に見立てています。さらにおもしろいことに、こういった室内のたたずまいは、西川祐信の絵本も見立てているのです。

さて、金沢八景ですが、この美しさを見つけだしたのが、瀟湘出身の中世の僧だったそう。円海山を鎌倉に向かって歩いていて、あまりの美しさにのけぞってしまったそう。故郷の瀟湘





も思い出したのでしょうかね。そこで、そのマイスポットにお堂を建てて、のっけん堂としました。のけぞる場所だからですね。のっけん堂から能見堂。けっしてお能の舞台があったわけではありません。各駅停車の駅で、特急でいらっしゃると、停まりませんが、能見台駅。これものけぞる駅、というわけです。

さて、アメフラシ。巻貝の一種だそうです。卵から孵ったときには、まだ殻はついているのだそうですが、成長につれて、殻を捨ててしまうそう。しかし、体の中には、殻のような板が残っているそうですよ。神経回路がよくわかりやすいので、医学でも研究されているそうです。英語では、sea hare。海ウサギですね。ロサンジェルスのレストランでは、アメフラシ料理を出してくれるそうですよ。食べられるんですね。酢みそ和えがおいしい、と聞いたこともあります。中国語でも海兔だそうです。日本でも地方によっては、海虎や海鹿と書く場合もあるそうです。2本の角がにゅっとしていてかわいいですね。小さくて、カラフルなウミウシもお仲間ですよ。でも、分類はなかなかむずかしいそうです。ウミウシはその名のとおり、2本の角が牛のように見えるからでしょう。ウミウシは、英語では sea slug。海ナメクジですね。ナメクジも殻をなくしてしまった仲間です。

英語で海キュウリ (sea cucumber) というのもありますよ。ナマコのことですね。こちらは、海鼠と漢字をあてますね。ナマコの俳句は多いのです。

小石にも魚にもならず海鼠哉 子規

松尾芭蕉の弟子の去来だと、こうです。

尾頭の心もとなき海鼠哉 去来

どちらがどっちだか。一茶にもあります。

浮けナマコ仏法流布の世なるぞよ 一茶



仏様の教えが広まっている良い世の中なのだから、海の底から出ておいでよ、というのですね。ナマコは江戸でも、好まれたようで、吉原にも海鼠売りが行き来をしたそうです。どんな呼び声だったのでしょね。

もうひとつ。タツナミガイ。英語では、wedge sea hare。くさび海うさぎ、ですね。どこがクサビなんだろう。タツナミガイもアメフラシと同じように、外側の殻はありませんが、体内に殻があるそうです。よく干潟を探すとこの殻だけ見つかりますよ。この殻がクサビ形だからでしょうか。和名のタツナミガイも、この殻の形からきた、ということです。三角形の一角が、波が立っているようにも、たしかに見えます。タツナミガイの体の表面にも突起があちこちにあって、これも波が立っているように見えます。まるで広重の神奈川沖浪裏です。でも、あんなに波立つ海を見ることってあったのでしょうかねえ。三崎口から引橋の134号線沿いに咲いているのは、タツナミソウ。こちらも波立っています。「沖つ白波 たつた山」ですね。これは、高校の古典の時間でも習う『伊勢物語』の中の一句。筒井筒です。

幼なじみ同士で結婚したご夫婦。当時はおヨメさまは実家にいて、通い婚でした。ご実家のご両親がなくなり、経済的にも不安定になる中、男の方は別の女性に通い始めました。でも、このおヨメさまは、凛としているのです。おかしいな、と疑った男は、ほかの女性のところへでかけるふりをして、自宅の植え込みの中に隠れてのぞいておりました。そうしたら、

なんと。このおヨメさまは化粧をするのです。ますます、アヤシイと思っておりますと、おヨメさまは一句。

風吹けば 沖つ白波たつた山 夜半にや君がひとり越ゆらむ

白波というのは、盗賊のことだったそうです。そういう山を超えていらっしゃるだんな様。心配だワ。というのですね。お化粧も、あくまで、たしなみだったわけです。その気持ちにすっかりまいってしまって、男は別の女性のところには行かなくなったそうです。一度は行ってはみたけれど、自分でご飯をよそってしまう下品さに幻滅した、という後日談つき。当時は、ご飯を自分でよそわなかなったのですね。普段からきちんと装いを整える女性と、ついつい気がゆるんでしまった女性。どちらがよいかというと・・・。なるほど、実生活に役立つことを、古典の時間にも、教えていただいていたのですね。

波立つけれど、沈まない、*Fluctuat nec mergitur* というのは、パリ市の紋章です。結婚式などで、会社の上司などが、たまに引用なさいますね。波が立ってもいいじゃないか、雨が降ってもいいじゃないか、ということですね。



参考にした本：

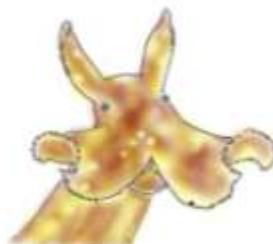
- 『生きもの探訪記』本庄四郎（北星社 2004）
- 『新編鎌倉志（貞享二刊）影印・解説・索引』白石克編（汲古書院 2003）
- Robin D. Gill, *Rise, Ye Sea Slugs!*, Paraverse Press, 2003.
- 『俳句の魚菜園鑑』復本一郎（柏書房 2006）

### 小倉さんからひとことまめちしき 〃 〃

アメフラシは小網代でも早春から春に以前はたくさん見られましたが最近は少ないようです。アメフラシの仲間には他にアマクサアメフラシがいます。このアメフラシはアメフラシとは異なり紫汁ではなく白色の汁を出します。小網代では10月ころたくさん見られることがあります。また、トゲアメフラシという体表面に瑠璃色の眼紋のような模様がきれいなアメフラシも8月から10月ころ時々見られます。アマモ場では早春から夏にかけてミドリ色と茶色いウミナメクジがたくさん見られましたが、昨年3月11日の津波でアマモ場がなくなり見られなくなっていました。

アメフラシの卵塊の海そうめんはよく見ると黄色い粒々が見えます。この粒々の中に卵が入っています。一つの卵の袋（卵殻）の中には15から30個の卵が入っています。また、アメフラシの仲間は雌雄同体で、何匹もの個体が連なって交尾をする「連鎖交尾」を行います。前方の個体がメスの役割、後方の個体がオスの役割をします。

アメリカのアメフラシの話がありました。カリフォルニアのアメフラシの仲間は巨大になるそうで、体長が1メートル以上になるものもいるということなので、見たいですね。



随想 小網代てんてん ②

まんなか広場のボランティア

須田漢一

第3日曜日。定例の「NPO法人小網代野外活動調整会議」のボランティアウォークに参加する。

午前中はスタッフに森の中を案内され、昼食後、「まんなか広場」付近で作業をしている人たちの中に加わる。

2メートルぐらいに密生したアズマネザサや、枝を広げたヤツデやアオキなどを刈込みで切る。プロ級の方が刈払機やチェーンソーで切ってくれたササやミズキの幹と枝、フジのつるなどを抱えたり、引っ張ったりして所定の場所に運び、積み上げる。時どき切り株に当たって転びそうになる。下手に転んだら、皆の笑いものだ。転び方によっては深傷を負うかも知れない。ほんやり歩くのと注意して歩くのでは、アクシデント時には怪我の程度が違ってくるかも、などと考える。

散らばった枝とササを拾いに南側の谷に入った途端、ズボット膝あたりまで潜ってしまった。長靴を引き上げたくても掴まる物がなく、持ち上がらない。いつだったか鎌倉・天

園の谷で、泥沼に積もった落ち葉の上を歩いた人が深みに落ち込んだ。そこはハイキングコース外なので、人が入らず、後日、遺憾で発見された……。今は、指導をして下さる岸先生を始めとして、インストラクター、市民ボランティア、学生などを混じえた、元気な人が大勢いるので、そうした事態は考えられないが、あせるな、あせるな、と長靴を握ねくり返しているうちに、神の助け、ズボット抜けた。やれやれ、ぶざまな所を見られなくてよかった。

後で聞いた話によると、そこは田んぼだったところ溜め池のあった場所だ、という。そういうことまで考えて作業をしなければ、大きな事故につながりかねない、と知った。

途中でひと休みしてから、あちらこちらに切り放されたササや枝をバケツリレー（手渡し）で運び、切りの付いたところで今日の作業は終わった。周りが開けたことが分かり、疲れも吹き飛んだ。

ふいに、曇り空から日が射した。森に陰翳（いんえい）ができ、印象が颯（さ）と変わった。これが森の良さなのだ、と思った。それは森から発生する目に見えない成分（フィトンチッド）によるものだといわれるが、木や草の密生した暗い

森では、このような感じは得られない。かつて、人が手をかけ、耕していた田や畑や雑木林などは、ひとたび人の手を離れると、雑多な草が茂り、ササがはびこり、木が芽生え、成長し、それらが組んずほぐれつ絡み合って、容易に人を受け付けない。その土地本来の極相林（クライマックス）になる前の、茨や蔓（つる）植物が謳歌する世界になっていく。

いま、少し混み合ってきた森に手をかける事で、光が射し込み、植物や他の生きものの種が増え、それらが次々と繋がって賑やかなここちよい森になっていく。そして森が豊かになることは、川や流水に溶けた養分の流れ込む干潟と海も豊かになる。

そうした森の姿を夢みて作業をすることに、森の回復再生作業のお手伝いをする意義がある、と思いを凝らすボランティアだった。

（2011、1/15、2/19、3/18）  
のボランティアウォークから



## 小網代の森と干潟を守る会の活動

- 2/11 スタッフ会議 役所屋フリースペース
- 2/17 横須賀博物館見学
- 2/19 NPO 法人小網代野外活動調整会議 定例作業支援
- 3/10 NPO 法人小網代野外活動調整会議 第2回ココボラ支援（雨天中止）
- 3/10 日本ナショナルトラスト協会総会、全国大会  
（於・ハンドレッドスクエア倶楽部：祖父川、高橋）
- 3/17 スタッフ会議 横須賀市民活動サポートセンター
- 3/17 つうしん No.122 印刷・発行作業
- 4/21 スタッフ会議 役所屋フリースペース
- 4/29 第108回自然観察&クリーン（担当 矢部）
- 5/7 三浦まるごと博物館出展（宮本）
- 5/13 鶴見川源流祭参加

### ◆鶴見川源流祭の様子



第22回目のお祭りだそうで、「いるか」のしっぽとして、小網代から22回出展しています。皆勤賞が欲しい所です。しかも、初めて間違えずに現場に到着することができました。

よく晴れた空の下、三浦市に落ちていた鳥を剥製にしたのを展示しました。触って見る子や本物の鳥と信じない子、欲しがる子、怖がる子いろいろな子がいました。じっくり見ることも大事なことです。



Sさんがソーラー電池でうごくバッタを子どもたちに面白いよと呼び込んでいました。さすが、その姿勢は年季が入っていましたよ。

文・宮本美織 写真・松下景太



## ご寄付ありがとうございます

望月光子さん  
ありがとうございました

## 会員専用ホームページ

小網代の森と干潟を守る会のホームページでは、「小網代 森と干潟つうしん」をカラー版でご覧いただけるほか、会員さまの専用ページで特別なサービスをご提供しています。インターネットをご利用の方はぜひお申込みください。 URL: <http://www.koajiro-higata.com>

お問い合わせ: [kohou@koajiro-higata.com](mailto:kohou@koajiro-higata.com) (小網代の森と干潟を守る会 広報担当・はし)

※ 会員専用ページの利用はいつでも申し込むことができます、また紙版つうしん郵送の中止・復活はいつでも可能です。上記アドレスへご連絡ください。

## スタッフコラム

### ◆真鶴遠足



ゴールデンウィークの前半戦 4月30日に小網代大好き人間が連れ立って真鶴へ遠足に行きました。

真鶴駅からバスに乗り、町立中川一政美術館です。個性的な海の生きもの、色とりどりの薔薇やひまわり。画伯の世界に取り込まれてしまいそうです。

美術館を出たら、お林(魚付保安林)を抜けて海岸へ。お林の中は樹齢300年を超える大木が、によきによきです。あんまり大きいので、何を勘違いしたのか、こんなところに立派な植物が生えたりしてます。

海岸から景勝



遠足のメインイベント  
真鶴町立遠藤貝類博物館です。

海の造形に魅入られて、  
なんだか、心がハッピーに…  
地球に生まれてよかった！



小網代の森と干潟ほどには、生きものの賑わいが感じられないのですが、気持ち良い空気の中でのびのびとリラックスしてきました。

文・橋 美千代 写真・松下景太

びっくり箱

中井 由実

初めて小網代に来た人は  
ウラシマソウの伸びる  
薄暗い峠を越えたあと  
滯すじの光る干潟をみて歓声をあげる  
流れの上流  
右手に盛り上がる緑の重なりを知って  
深くうなづく

けれど  
干潟を見渡す岩に腰をおろすと  
そこには何も無いと思うだろう

おにぎりを食べてお茶を飲み  
ふと見やる干潟一面  
てんでに穴からとび出した  
チゴガニ、コメツキガニ、アシハラガニが  
縦横無尽に息づいているのに気づく

その瞬間の笑顔を見たくて 小網代は  
人の足音がするたびに  
カニ達を干潟の底にしまいこんでしまうのだ



小網代が呼ぶ

中井 由実

あまりに空が晴れ渡り  
お日さまがくまなく照らすこんな日  
遠のいていた小網代が  
南のほうから呼ぶ声がする

隣の家のミスキは  
きつと小網代の大木の分身  
片ときも アカテガニの浜を忘れさせない  
小網代が呼ぶ

ようやく来た春が  
上げ潮にのって干潟を満たし  
もう 斜面の上までとどいているだろう  
小網代が私を呼ぶ

塗りかえられていく景色を  
早く見においでよ と

## 新連載 カニグッズ (1)



### カニグッズ 1

小網代の森を守る会が中心になって夏、アカテガニ広場で「カニパト」をやっていたころ、カニパト隊が分かりやすいようにアカテガニのゼッケンを作成しました。高橋某氏が中心になってゼッケンを作成しました。何気なく手伝うと言ってしまった私は夜明けまで、預かった布に赤いテープをつけてミシンを踏みました。高橋某氏はテープも布を切って、縫っていましたが、それでは間に合わないと確信した私は街まで出かけ、閉店すれすれの時刻でやっと赤いテープを購入できました。翌日はカニパト始めの日でしたので、夜明けまでかかって、ようやく20名分のゼッケンを縫い上げました。

時はうつり、今、カニパト隊はライフジャケットが制服です。使われなくなったゼッケンをずうっと捨てられなかった私は、2012年1月はじめ、赤いテープをカニの足にみたてて、鍋つかみにリユースするアイデアを思いつきました。一生懸命つくりました。全部で15枚できました。写真の鍋つかみです。

これは今年の夏、NPO法人小網代野外活動調整会議の主催するカニパトの時期にアカテガニ広場で、心ある方々に募金の印として使ってもらえたらと考えています。

まだ、赤いテープが残っています。第2弾は何ができるか楽しみです。アイデアは突然、降ってきますので・・・。



### カニグッズ 2

これはカニの図柄の入ったタオルです。Nさんのお土産です。小網代の森を守る会のスタッフはどこかへ行くとカニをモチーフにしたグッズをついつい、探してしまいます。小網代の森と干潟を守る会に名称変更した後も、ついつい、カニグッズを探してしまいます。ほら、そこで、カニグッズをみている方？あなたはもしかして？

カニグッズ収集家 宮本 美織





## 第 109 回自然観察 & クリーンのお知らせ

小網代の森の緑も一段と濃くなり森から聞こえる小鳥たちの声も干潟で楽しめるようになりました。アカテガニをはじめ干潟のカニたちも食事をしたりダンスをしたりと忙しそうです。初夏の一日、干潟のカニのダンスをご覧になってはいかがでしょうか。

6月23日(土) AM10時 三崎口駅前集合 小雨実施  
持ち物 長靴、お弁当、飲み物、雨具、  
小さなお子さんは着替えの服もあると安心です  
講師 小倉雅實さん



## NPO 法人小網代野外活動調整会議からのお願い トラスト緑地保全支援会員 & 小網代応援団募集

※ 小網代の森と干潟を守る会は NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動を支援しています。

### ◆トラスト緑地支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ (<http://ktm.or.jp>) から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。

通常のトラスト会費(大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円)の他に 3000 円の支援会員会費が必要です。  
よろしくお祈いします。

### ◆小網代応援団に入るには

NPO 法人小網代野外活動調整会議 (電話: 045-540-8320 E-mail: [koajiro@koajiro.org](mailto:koajiro@koajiro.org)) までお問い合わせください。

「小網代応援団」に登録していただいた方には、年に数回の特別観察会をご案内いたします。森と干潟の様子をしっかりと見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。

小網代 森と干潟つうしん NO.123 2012年5月19日発行

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: [info@koajiro-higata.com](mailto:info@koajiro-higata.com)

電話 046-889-0067(副代表 仲澤)

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7月~6月 入会金不要)

郵便振替 口座 00260-4-21569 加入者名 小網代の森と干潟を守る会